



# 熱が出たとき

※「子どもの救急ってどんなとき？」より抜粋「子どもの救急ってどんなとき？」は希望者に保健センターで配布しています。

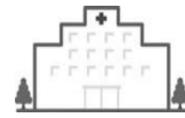
## 観察のポイント

●子どもは、お昼寝からさめた時、夕方に外から帰ってきた時などに熱を出すことが多いものです。熱が出たからといってあわてずに、お子さんの体全体の様子をよく見ましょう。

●38℃以上の場合には注意が必要です。

※入浴・ほ乳・食事の直後や泣いたり運動した後は

体温が高めですので、静かにしている時に、朝、昼、夕、寝る前など一日3～4回熱を測るようにしましょう。



## 早めに救急外来を受診したほうがいいとき

●生後3か月未満の赤ちゃんに38℃以上の熱がある。●水分を受けつけない、おしっこが半日くらい出ないなどの脱水症状がある。●おう吐や下痢をくりかえし、ぐったりしている。●はじめてけいれんを起こした。●顔色が悪く、あやしても笑わない。●眠ってばかりいる（呼びかけてもすぐに眠ってしまう）。●激しく泣き、あやしても泣きやまないでぐずっている。●呼吸の様子がおかしい（呼吸が不規則、胸がペコペコくぼむ、鼻の穴がヒクヒクしている）。



## 通常の診療時間内に受診しましょう

●水分や食事がとれている。●顔色はあまり悪くない。●熱があっても夜は眠れる。●遊ぼうとする。●あやせば笑う。●発熱以外の重い症状がない。●それほど機嫌が悪くない。

## 夜間・休日の受診先

夜間平日・土曜日 午後7時～10時

館林市夜間救急診療所

館林市新栄町1844-3

☎73-2313

日曜日・祝日 午前9時～午後5時

休祝日当番医

広報紙(P17)や館林邑楽郡医師会ホームページでお知らせしています。

上記の時間帯以外

救急テレホンサービス

☎73-5699

にて受診可能な最寄りの医療機関をご案内しています。



**家庭で対処できること**  
子どもが夜になって急に具合が悪くなったとき、通常の診療時間の受診を待っている間に家庭でも対処できることをご紹介します。  
**体温と全身状態の観察**  
熱の状態と熱以外の症状をよく見ましょう（吐いていないか、水分はとれているか、食欲があるか、息苦しさはないか、呼びかけるときちゃんと反応するか、よく眠れているかなど）。  
**水分補給をしっかりと行う**  
与える飲み物は、湯ざまし、麦茶、スポーツドリンクなどが適しています。

**体温管理をしっかりと行う**  
汗が多く出る場合は、ぬるま湯で絞ったタオルで体を拭いてあげてください。体の熱いところは、氷枕やタオルなどで冷やします。冷たくなっているところがあれば、布団を一枚多くかけるなどして保温しましょう。  
**注意すること**  
母乳やミルク、食事は欲しがれば与えますが、無理に与える必要はありません。また、与える食事は、消化のよいおかゆやうどんなどの炭水化物を与えるように心がけましょう。  
**問合せ 保健センター**  
☎82-3757

## 医療の専門スタッフがアドバイスします

電話相談

### 群馬こども救急相談

#8000番をご利用ください

受付時間  
月～土曜日 午後6時～翌朝午前8時  
日曜、祝日、年末年始 午前9時～翌朝午前8時

※ダイヤル回線、IP電話等は03-3839-0886へ。  
※電話相談の通話料は有料となります。

群馬県医務課

### 群馬こども救急相談

☎#8000 ※ダイヤル回線・IP電話などは

☎03-3839-0886

月～土曜日 午後6時～翌朝午前8時

日曜、祝日、年末年始 午前9時～翌朝午前8時

看護師や保健師などの医療スタッフが電話で相談に応じ、アドバイスがもらえます。通話料は有料。

### 「子どもの救急ってどんなとき？」

群馬県が作成した、子どもの救急時の対応について分かりやすくまとめられた冊子です。群馬県ホームページからダウンロードできます。

URL <http://www.pref.gunma.jp/>

### (社)小児科学会ホームページ「こどもの救急」

URL <http://kodomo-qq.jp/>

生後1か月から6歳までの子どもを対象に夜間や休日などの診療時間外に病院を受診するかどうか、判断する際の目安を提供しています。

相おしほこにー



# 子どもの急な病気 どうしたらいい？

夜、子どもが急に熱を出した！ そんな時、特に初めての子育ての育児では、どうしても落ちついて子どもの様子をよく観察してみましよう。病院の診療時間外に、子どもが急な病気やけがをした時の判断や対応について普段から考えておきましょう。

### どう対応したらいい？

子どもが夜になって急に熱をだしたり、せき込んだり、吐いたりすると心配になります。しかし、子どもの急な発熱やおう吐、せきといった症状がでて、すぐに救急外来での受診が必要な状態はそれほど多くありません。

家庭でも急いで受診すべきかどうかおまかな判断はできます。判断に迷うかたの支援として、「群馬こども電話相談」、「子どもの救急ってどんなとき？」、「(社)小児科学会ホームページこどもの救急」などがありますので活用しましょう。

また、救急外来は本当に必要な時だけ受診するようにし、比較的状态がよければ、翌日のかかりつけ医を通常の診療時間内に受診するようにしましょう。

ただし、けいれんが止まらない、呼吸が極めて困難になっている、激痛（腹痛・頭痛）がある、意識がない、出血がとまらない、これらのような症状がある場合は、救急車を利用してください。